

## カナダ金融政策（2025年10月）

### 2会合連続の利下げ

2025年10月30日

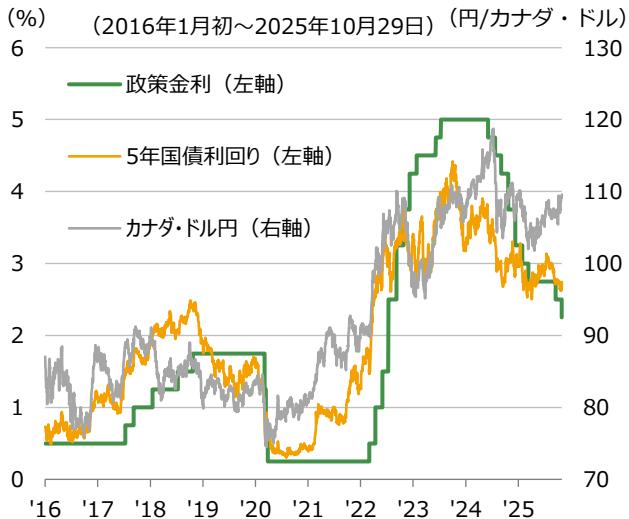
### 追加利下げの可能性を意識しつつも、基本線は当面の政策金利据え置き

カナダ銀行（中央銀行）は10月29日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を2.50%から2.25%に引き下げる 것을 결정しました。利下げは2会合連続です。

声明文やマクレム総裁の会見では、利下げ決定の理由は「経済の継続的な弱さ」と「インフレ圧力の抑制」と説明されました。具体的には、米国による関税や貿易の不確実性がカナダ経済を弱体化させており、これは単なる景気循環の悪化にとどまらず構造的な転換でもあるとし、貿易摩擦によるコスト増を経済の弱さが相殺する形でインフレ率は目標の2%に収束する予想だと述べています。また、米国の貿易政策は依然として予測不能だが、経済・物価に与える影響はより明らかになっているとし、従来よりも見通しの確からしさが増した印象です。その上で、「経済がおおむねカナダ銀行の見通し通りに推移した場合、この構造的な調整の期間を通じて経済を支えつつ、インフレ率を2%近辺に維持するためには、現在の政策金利が適切な水準にあるとみている」と当面は政策金利を据え置くことを示唆しました。ただし書きとして「見通しが変われば対応する準備はある」と記し、追加利下げの可能性も排除していませんが、市場では更なる利下げを予想する向きが多かったため、利下げ打ち止めが基本線であるとの受け止めから発表後は金利上昇とカナダ・ドル高の反応となりました。追加利下げには失業率の持続的な上昇など追加の材料が必要になるとみられ、当社では、しばらく政策金利を据え置いて様子を見ると想定しています。

（執筆：調査部 岩手幸久）

#### カナダの金利と為替



#### カナダのインフレ率



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧説を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指標・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまで参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management